

ひといき

勿忘草

たまには、一人でのんびりするのもいいもんだ。

うん、風も涼しい。きつねうどんも美味い。

ただ、さつきから気になっているのは「お抹茶」。抹茶アイスとかじゃないだろうけど、何なんだ「お抹茶」って。何で「抹茶」に「お」をつけるんだ。偉い抹茶なのか。

イメージは茶道部のあれ。

——どうぞ、粗茶ではございますが。

——結構なお手前で。

あれ、確か「お抹茶」じゃなかったっけ。いや知らんけど。

……ごめんなさい茶道部の皆さん。俺、茶道やったことない。

じいちゃんがやってるのは見たことあるよ。お菓子をよくくすねておりました。干菓子うめえ。

でも、さすががこの国を代表する都の一つ、京都。食事するときも「和」を忘れません。

長椅子に赤い布が敷いてあって、その上に座布団。隣の同じような長椅子の上には、二つの座布団の間に、割りばし入れの乗った四足テーブル。赤い和傘が開いて立ててあり、日よけになっている。さながら和風ビーチパラソルですな。

向かいには公園の東屋みたいどころ。寝殿造の回廊を区切

つたようにも見える。

座敷が一段高くなつて、客が靴を脱ぎ、座布団に座って飯を食う仕組み。紅白の提灯もぶら下がってるし、もうね、何だろう。日本っていいね。

ああ、で、さつき言った「お抹茶」はさ、東屋もどきの柱にはりつけてあるメニュー（雰囲気的にはお品書き）の一つなんだよ。他にきつねうどんと、湯豆腐とか。そう、湯豆腐。イエス湯豆腐。

まあね、こんなところに「はんばーがー」やら「ほつとどつぐ」やら書かれたら、日本の偉い人が卒倒しそうだ。湯豆腐はびつたりだと思ふよ。でも思わず「ゆ、ゆどうふう？」とか言っちゃった。表現の自由ということで許してください。

「ほな、今日はおおきに」

「またお越しやす」

お会計での会話風景。いやあ、京都弁は綺麗なな。

俺なんか関東の方の出身だからさ、何か懂れるよ。

今は北の大地ですえ。職場がね、あっちの方なのさ。

……え？ 仕事してるよ俺。京都にも仕事で来たんだよ。二ートじゃないよ。真昼間からうどん食ってるけど。

んー、何というか、警察みたいなもんかなあ。警察とは管轄が違うんだけどね。

俺たちが相手にするのは、人間じゃないのさ。

陰陽師と警察を足して二で割ったみたいな仕事かなあ。それくらいの認識でいいよ。基本、大多数の人たちは俺たちに関わることがないから。

というか、忘れていいと思う。俺これから帰るし。

……どうしようかなあ、お抹茶。気になる。苦いよな。緑だよな。だがしかし気になる。

そうだ、みんなにお土産買わないと。

京都って色々あるけど、みんな高いイメージがある。所持金五七五六円。足りるか。

晴燐さん（上司です）にはおまんじゅうか、おせんべいでいいだろ。クロウさん（先輩だ）には日本酒とかか？ 待てよ、クロウさん酒飲んだっけ……。

しずく（これは同僚）はあのアニメキャラのストラップでいいし、ブティカ（こっちは後輩）は、何、だろ……。あいつ色々謎だからなあ。無難なところで和菓子にしよう。

あ、そうそう、この人たち国籍入り混じりだから。晴燐さんとしずくは日本人だけど、クロウさんとかブティカはイギリス人だったりエジプト人だったり。色々。

アメリカ人もいるよ。俺の元生徒二人。

生徒っていつても、教育係みたいなものだ。一年間だけ、新

入りの面倒をみる。その呼び方が「先生」と「生徒」。

俺が以前「生徒」として持ったのが、アメリカ人の双子だった。今はもう「先生」と「生徒」の関係じゃないけど、関係は大して変わらない。

京都にも、三人で二度ほど来たことがある。二人とも目を輝かせてたっけな。いつも大人ぶってるけど、まだ子供なんだよなあって嬉しくなって、財布がどんどん軽く……何か俺、おっさんクサクね？

そのときは違う店に行ったんだけど、俺はやっぱりきつねうどんだった気がする。もう四年前かあ。あの頃確か、俺十八だったもんね。懐かしいです。

ほのかに抹茶の香りがする。俺は軽く息を吸い、立ち上がった。隣の席で湯豆腐を食べている人が見える。

やっぱりお抹茶は、また三人で来たときにしよう。あの二人がどんな反応をするか見てみたい。

「よしっ」

ひといきついたところで、行きますか。俺のわけわからん話に付き合ってくれてありがと。

それでは、またどこかで会えたなら。

人の縁というのは、不思議なものですね！

了